

二〇二四年四月二日

よどみなく馳せる疎水の花筏

むべ

花屑を吐きて大きな鯉の口

康子

銀輪の轍くつきり落花道

かえる

祝福のごとく総身に花吹雪

むべ

二〇二四年四月二日

遠山は花の曼荼羅歟休め

うつぎ

花下に笑む一会の人は車椅子

むべ

花筏分けて棹さす渡舟かな

せつ子

二〇二四年四月二〇日

花筏分けて水脈引く残り鴨

やよい

雨粒を溜めて仰向く落椿

康子

夕映に鏡びかりす柿若葉

むべ

陣旗立つ古井戸に花散り込めり

なつき

虎刈りに焼跡三笠山笑ふ

もところ

二〇二四年四月九日

切株に並べられある落椿

むべ

母と肩ならべて覗く犬ふぐり

康子

二〇二四年四月八日

手作りの菓子持ち寄りて花の宴

澄子

花の雲馳せゆくジェットコースター

智恵子

大池の水際を綴る花の影

せつ子

曇天に読経くぐもる花御堂

もところ

背伸びする幼の指に花吹雪

せつ子

湧水に渦巻いてをる花筏

康子

二〇二四年四月七日

試歩の母饒舌となる花の道

康子

ウエーブのごとくに風の花菜畑

澄子

大木をどぐるまきして蔓芽吹く

みきえ

二〇二四年四月六日

放流のダムの飛沫に飛花落花

千鶴

公園の子供列車に花ふぶき

みきえ

この平和永遠にと願ふ花の下

たか子

渚めく広場の落花暈かな

澄子

毎日句会みゆる選・二〇二四年四月一四日